

「小山田小学校の小山田太鼓踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立小山田小学校

2 学年・人数

5年生・6年生（計18人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年2月～7月 総合的な学習の時間（本校体育館及び校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和5年5月21日（日） 小山田大運動会（本校校庭）

令和5年7月30日（日） 小山田町夏祭り（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称

小山田太鼓踊り（こやまだたいこおどり）

(2) 由来

小山田太鼓踊りは、小山田町に伝わる郷土芸能である。豊臣秀吉の朝鮮出兵の時に、島津義弘が武士たちの士気を高めるために始めたと言われている。その後も、小山田町では、雨乞いや農作物の虫除けを祈って行われたそうだ。戦後、途絶えていたが、1965年復活したそうだ。

(3) 構成等

太鼓とか鐘に分かれて踊る。太鼓の方がやや多い。独特のリズムがあり、それぞれ1番道、2番道、3番道・・・と呼ばれる踊りの型がある。それらをいくつか組み合わせ、隊形を変えながら踊る。

太鼓の人は、白い衣装を着て太鼓を身に付ける。飛び跳ねながら太鼓を打ち、力強く手をまっすぐ上に伸ばす。鐘の人は、黒い衣装を着る。約3kgの重い鐘を片手で掲げ、リズムよく鐘の音を響かせる。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間で、5・6年生が取り組んでいる。踊りの練習だけでなく、太鼓踊りのいわれ等についての調べ学習も行っている。

練習の指導や発表の着付け、飾り付け、校外での発表における道具の運搬等、小山田町太鼓踊り保存会が、全面的に協力してきた。今年度も、踊りの指導に加えて、保護者や学校職員向けに着付けの講習会が行われた。

小山田町孝子碑夏祭りでは、太鼓踊り保存会による太鼓踊りの披露がある。踊り手も高齢化が進み、後継者育成に苦慮している。町内に呼び掛けて、踊り手を募集し、神社やおはら祭り等の公の場で踊りを披露した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

小山田町の伝統文化を伝承していくために、教育課程への位置づけを明確にし、5・6年生全員が踊ることができるようにしている。また、踊りの由来についても学習し、小山田の文化に誇りをもつことができるようにしている。

前年度の3学期に6年生が5年生や4年生に踊りを伝えるなどして、子ども間で伝承していくようにしている。

また、踊る前の衣装の着付け及び太鼓の装具の付け方などを、保存会の方々から指導を受けながら保護者及び職員も一緒に行い、伝承文化にかかわる機会を設けたり、学校だよりで活動の様子を積極的に公開したりしている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【5年生児童生徒】

初めて太鼓踊りを踊ってみて、6年生や太鼓踊り保存会の方々に教えていただいて、自分も踊れるようになった。

【6年生児童生徒】

最上級生として、4・5年生に伝えられるようにがんばった。夏祭りでもたくさんの方が見ている中で緊張したけど、しっかりと踊ることができた。

【保護者】

地域の協力のもと、着付けを教えていただいた。小山田の伝統を受け継ぐことができありがたい。

【教職員】

小山田の伝統文化に触れる機会をいただき、地域の理解に役立っている。保存会の方の協力ありがたい。

【保存会から】

踊り手の高齢化で、体力的にもハードになっている。歴史的にも貴重な価値ある踊りであるため、子どもや地域住民も一緒に受け継いでもらいたい。今年度は新会員も増えて、創立130周年記念式典や外部でも披露することもできた。

【地域の方から】

コロナ禍で、久しぶりに地域住民が集まって太鼓踊りを見ることができて嬉しい。子どもたちが踊るのを見るのはとても楽しみである。自分たちの小山田町に誇りをもって、大切にされてきた文化を引き継いでほしい。